

魅力的な展覧会で 仙台への観光を誘い、 誰もが気軽に立ち寄れる 空間を目指します。

宮城県美術館 館長

ありかわ いくお

有川 幾夫 氏

プロフィール

昭和26年生まれ。仙台市出身。血液型B型
昭和53年東北大学文学研究科修士課程を修了後、名古屋市博物館に入り、約2年間勤務。昭和55年宮城県美術館準備室勤務となり、以来、学芸員として同美術館を支える。そして昨年、初の生え抜きの館長となった。「休みの日は映画を見に行ったり、コンサートに出かけるのが好きです。映画はジャンルを問わず、音楽もクラシックからローリング・ストーンズ、エリック・クラプトンまで幅広く聴きます。どうやら私は“極める”タイプではないようです」と笑う。



毅然とした対応で 風評被害を払拭

―震災以降、ルーブル展、ゴッホ展、フェルメール展など、大きな展覧会を次々と開催されました。世界的な美術品を展示するにあたり、ご苦労されたことをお聞かせください。

作品を貸し出していただくには、所蔵元から信頼を得なければなりません。施設の安全性はもとより、私たちが作品や作家を十分に理解し、プロとして展覧会を企画・運営できるかが問われますので、それを理解してもらうことが重要です。もう一つは、展覧会を事業として成立させられるよう、経済的な条件を整えること。この二つの課題をクリアすることが、大変と言えは大变ということになるのかもしれませんが、苦勞ということではありません。

―震災後は作品を貸し出すことに関して、所蔵元から原発事故の影響を懸念する声も上がったのではありませんか。

はい。震災が起きた当時は、ちょうどフェルメール展の準備をしている最中でした。そこで私たちは、当地の被災状況と、宮城県美術館は大きな被害を受けなかったこと、だから心配はされないことなどをまとめた書類を、作品を所蔵するアメリカやオランダ、ヨーロッパ、カナダなどの美術館に送りました。私たちがここに住んでいる

人たちは、フェルメールの作品を鑑賞することに強い情熱と期待をもっているという熱いメッセージを送ったわけです。しかし相手は原発事故の影響を大変気にしていましたし、問い合わせも多く寄せられたことから、「影響はありません」と丁寧に説明し、外国の方々が抱いている誤解も一つひとつ解いていきました。

―来館者の反応はいかがでしたか。

「震災後に、この仙台でフェルメールの展覧会を見ることができると聞いても思ってもいなかった」という感想をたくさん頂戴しました。ある方からは、お手紙をいただきました。そこには美術館に対する感謝の言葉だけではなく、作品を貸し出してくださった外国の美術館への感謝も記されていました。たまたま私が作品の返却に同行することになったものですが、オランダのアムステルダム国立美術館に、その手紙を持っていったのです。向こうのスタッフの皆さんにも読んでいただきました。先方も日本の役に立ってくださる喜んでくださり、その後に当美術館で開催した「ゴッホ展」にも、積極的に協力していただくことができました。

仙台をより輝かせる 美術館を目指して

―今後、観光客はもちろん、国際会



11月1日に行われた「ミレー展」テープカットの様子(有川館長写真右)。ミレー展は12月14日(日)まで。

議等々で国内外から仙台を訪れる人の数が増加すると思われれます。そこで、仙台が都市として一層輝きを増すために、美術館と地域観光のあり方についてどうお考えですか。

宮城県美術館は、教育委員会に所属しています。ですから役割という面では「学習機会の提供」が一つのテーマです。言葉は堅いですが、一方で美術館は、観光と非常に馴染みやすいものだと思っています。教室を飛び出して、歴史や文化、芸術にふれながら新しい体験ができる場として、美術館が機能する。そんなアイデアを出し、実現していきたいと思えます。また、展覧会にたくさんのお客さまに足を運んでいただくためにも、美術館の情報をタイ

ムリーに発信することで、「この展覧会が観られるなら、仙台に行ってみよう」というように、展覧会が仙台を訪れるきっかけになれば嬉しいですね。

—そのためにも地元企業との連携が、より必要になるのではないのでしょうか。

これまでも地元企業から協賛をいただき、展覧会を運営してきました。この経済的バックアップは、実は私たちにとりましては、精神的なバックアップにもなっており、大変心強く思っています。企業との連携という点では、私たちの方が、まだまだ不慣れな部分が多くありますので、これから勉強して、チャレンジしていきたいと思えます。

子どもと一緒に立ち寄れる空間に

—今後の抱負をお聞かせいただけますか。

昨年は、特別展の観覧者が22万人とこれまでの最高を記録しました。今後もたくさんの方に観て、喜んでいただける展覧会を続けていくことが大きなテーマです。これまで展示していなかった所蔵品を積極的に披露し、常設展の充実も図りながら、作品を展示するだけでなく、来館者が「新

しいものに出会う機会」を多く設けたいとも考えています。講演会を開催したり、県民の皆さんが自由に制作活動を行うことができるオープンアトリエの有効活用を、今後もより力を入れて推進していきたいと思っています。そして地域の方々にも、美術館を日常的に楽しんでいただけるようにしたいですね。例えば、休みの日にお子さんと一緒に訪れたいと思えるような「余暇時間を楽しく過ごせる美術館」になればと思っています。

【概要】

宮城県美術館

館長：有川 幾夫

開館：昭和56年11月

所蔵作品：長谷川湊二郎「猫」、松本竣介「画家の像」他、高橋由一「松島図」他、パウル・クレー「橋の傍らの三軒の家」他、佐藤忠良「群馬の人」他、多数。

開館時間：9時30分～17時(観覧券の発売は16時30分まで)

休館日：毎週月曜日

(ただし休日にあたる場合は開館し、原則として翌日が休館となります)

所在地：仙台市青葉区川内元支倉34-1 TEL.022(221)2111

ホームページ：<http://www.pref.miyagi.jp/bijyutu/>

森

『森』は生きています。人間と共に。

二酸化炭素を酸素に。人間にとって欠かせない酸素を、人間が吐き出した二酸化炭素から作り出す植物たち。この自然のサイクルを、一本の木を、そして森全体を、見守っていかなくては……。そう私たちは考えています。私たちは青葉環境保全です。

—— より良い環境をめざす ——
AOBA 青葉環境保全

本社 / 仙台市若林区蒲町19-1

電話 (022) 286-3161 (代)